

ボッチャの経験から「パラリンピック」

#パラリンピック #パラスポーツへの関心 #障がい #みんなでできる鬼ごっこ #前半は座学 #後半は体を動かして体験 #みんなで楽しくできる #差別や偏見 #ボッチャ #かわいいキャラクター

学校名	秦野市立北小学校
実施教科	総合的な学習の時間
授業担当者	小清水雄太
授業時間	40分×2回
実施対象	1-6年生支援学級(1クラス 45名)
授業のねらい	ワールドカップでブラジルに破れ、日本の敗退が決まった日でした。スポーツや国際大会への関心が高まっている中、今年度の冬に「オリンピック」そして「パラリンピック」が開催されることを児童たちに伝えました。さらに体育の学習で経験のある「ボッチャ」が「パラリンピック」の競技であり、その競技のルールや工夫でみんなが楽しめるようになっていくことを伝え、パラスポーツへの関心をより高めることがねらいでした。また、学習の途中で「障がい」についても触れ、普段から誤った言葉の使い方や理解をしている児童も見受けられたので、少しでも偏見や誤った考え方がなくなるようにと教師の想いを伝える時間でもありました。
使用ユニット	パラリンピックってなんだろう？
活用方法	本来でしたら、後半に「ボッチャ」で今回学習した様々な投げ方を取り入れて挑戦し、自分のやりやすい投げ方でやってみるという活動で「みんながたのしくできる」という理解を深めるつもりで計画していましたが、たまたま校庭が全面空いていたので、体いっぱい動かせるチャンスだと思い「みんなでできる鬼ごっこ」に切り替えました。前半は座学や考える時間が多かったですが、後半は体を動かして体験的に学ばせたいと考えていました。
生徒のコメント	「みんなでできる鬼ごっこ」では、児童の中から「苦手な子が鬼になったら得意な子が変わってあげる」姿が見え、「みんなで楽しくできる」が表現された瞬間だと思い、学習の最後に価値づけをしました。また、「パラスポーツをやってみたい。」と一人の児童から言われ、次の学習につながる言葉だと思いました。
先生コメント	「障がい」について話したときは、改めて難しいと感じさせられましたが、伝え続けていくことで差別や偏見がなくなっていくと信じ、これからも実践を続けていこうと思いました。 パラスポーツの魅力は、体育の時間の「ボッチャ」を通して、児童は体験的に知っていますが、この教材に出会えたことで、より深く「みんなが楽しめる・できる」ということを理解し、それが「鬼ごっこ」のルールの工夫を作ったのだと思います。「パラスポーツをやってみたい。」と言ってくれた児童の言葉を受けて、授業者としても魅力が伝わり、嬉しかったです。今後につなげていきます。 アニメーションやスライドがあり、授業しやすかったことです。また、かわいいキャラクターが児童に会っていたと思います。素敵な教材に出会えてよかったと思います。
その他	とても分かりやすい教材で、よかったので、是非活用してみてください。

